

## 「オバマ幻想」にさよならを

はじめに

今年、「三・一朝鮮独立宣言」闘争九〇カ年、「キューバ革命」五〇カ年、「イラン革命」三〇カ年、「ベルリンの壁」崩壊二〇カ年になります。朝鮮半島南北での「三・一精神」はいまだに健在です。チェ・ゲバラが六七年一〇月八日にボリビアで殺害されて以降、今もゲバラ人気は世界中で衰えることはありません。アメリカの中東支配の完全な失敗がこのイラン革命から始まりました。レバノンのヒズボラやパレスチナのハマスの登場の起源といえます。壁の崩壊は、東西ドイツの統一、ソ連の崩壊へと続き、東西冷戦の終結へと続きます。基地被害に苦しむ沖縄は、平和の配当を期待しました。九五年五月に「米軍のアジア一〇万人体制を維持する必要がある」と、ナイレポートが提出され、それが沖縄の期待に対するクリントン政権の回答でした。今度オバマ政権の駐日アメリカ大使に指名されたジョゼフ・ナイその人の書いたレポートでした。この年の九月四日、海兵隊による少女暴行事件が起こります。沖縄の怒りにやっと日本全体が気づいた年でした。

一二年後、〇七年二月にこのナイは、ブッシュ政権時に国防副長官だったアーミテージと共に

「アーミテージ・ナイレポート」を提出します。正式名を「日米同盟二二〇二〇年までにアジアをいかに正しい方向に導くか」です。ようやくすれば「世界中で日米合同軍が戦争できる憲法体制を作れ」という要求書です。今年からオバマ大統領の代理として日本に常駐します。クリントン、ブッシュ両政権の一六年間、対日軍事政策の常に中心で影響を持ち続けたこのハーバード大学の教授と毎日、この日本で、これから私たちは対峙することになります。ジョセフ・ナイをして「日本の大使などになるんじゃないやなかった」と言わしめるまで戦い抜きましょう。

### 「オバマ新政権の選択」パートⅡ

前回のニュース五一号で、オバマ氏とその政権の方向について大まかにデザインしてみました。が、安保健衛政策分野の人事をみることでさらにはつきりさせる必要を感じます。オバマ氏がどんな人事を選択しましたか。政権の性格は、それに尽きます。私たちが常に問題にするのは、その政権の国内政策ではなく、対外政策であり、軍事政策です。前回の結論は「自滅の道への同行はご免だぜ」ということでした。

### || ジョー・バイデン副大統領

イラク戦争前、議会の証言公聴会の議長であったにもかかわらずイラクの実情を知る人々の証

言を拒否することで、ブッシュの攻撃に加担し、イラク占領後はイラク三分割の計画を推進、イラク侵略という自覚が全くないから推進できたと、理解できません。

### || ラーム・エマニエル大統領首席補佐官

イスラエルとの二重国籍をもち、父はイスラエル建国当時の軍事組織「イルグン」メンバー。一無は九一年湾岸戦争時、イスラエル軍に志願している。オバマ大統領に最も近く、影響力も大きいと評価されている。民主党内下院の序列四番目の議員総会議長を務めている。

### || ジェームス・ジョーンズ国家安全保障担当補佐官

NATO軍の元最高司令官、海兵隊退役将軍。シェブロン社やボーイング社の取締役会出身。

### || ヒラリー・クリントン國務長官

イラク戦争に賛同したこの間違いを一度も説明しないばかりか、選挙期間中イランの国軍をテロ組織と呼び、場合によって排卵への攻撃を容赦しないと繰り返し返してきた。一月二二日の長官就任演説で「イスラエルの国防のための防衛攻撃を支持する」と表明。つまり、昨年末から年初にかけてのガザ攻撃を支持すると言っている。二月一六日、日本に来て、明治天皇を祭った明治神宮に参拝し、一七日に中曽根外務大臣と「米軍再編」

に関わる沖縄海兵隊の移転に関する協定に調印。これで日本から数千億円引き出させるといふ満悦でインドネシアに向かいました。

## ロバート・ゲイツ国防長官

ブッシュ政権に引き続き国防長官を務める。ラムズフェルドのあとにも攻撃を命令し続け、今やつと民政安定化が占領の両輪だと言いつけている。二月二十七日、オバマ大統領の一年完全撤退声明を受け、イラク撤退を続けながら主戦場をアフガンに切り替える。八月のアフガニスタン大統領選挙までにアフガン増派を続け、平定し安定化を狙う。

## ジャネット・ナポリターノ国土安全保障長官

公民権侵害監視団体からアリゾナ州知事時代の移民弾圧政策を批判されてきた。州兵をメキシコ国境警備に初めて出動させ、移民管理対策を牢獄建設に結びつける経済政策をアリゾナ州にもたらしたことが批判されている。こんな人物が五〇〇億ドルの予算と二〇万人の職員を指揮することになる。

## 新政権の対日政策

二月二十四日の日米首脳会談。ドル基軸体制を維持するためにもつとアメリカの国債を買い、軍事面の約束を早く実行すること。麻生首相は、誰よ

りも早く世界のナンバーワンに会えて喜ぶ余り、どんな荷物を負うことになったのかお構いなし。どこまで空気が読めない指導者なのだろうか。

オバマ政権の対日政策は、「はじめに」でも書いたように駐日アメリカ大使にジョセフ・ナイを選んだことですべてを物語る。軍事のみならずアメリカが持つすべての文化的・芸術的力をも動員した外交政策をやるべきだという「ソフトパワーの活用論」もナイ氏の提言。しかし、私たちは、脇目もふらずもう一度「第二次アーミテージ報告」をジョセフ・ナイ報告」として読み抜く必要があります。二〇〇〇年一〇月の「第一次報告」では、日本に対し集団的自衛権の行使と日米共同作戦の実施を求めました。〇七年二月の「第二次報告」では、日本が国連の安保常任理事国になるためには武力行使を含む国際貢献が必要であり、したがって、海外派兵を特措法ではなく恒久法で行うという議論を歓迎し、そのための軍事費の拡大を求める。また米軍と自衛隊の連携強化は「集団的自衛権についての日本の国内法決定に関わらず行われるべき」と、憲法改悪や日米軍事一体化の推進を露骨に主張しています。ヒラリー・クリントンもジョセフ・ナイもこの方針を変えるつもりは全くありません。私たちは、よく見、よく行動するためにもマスコミが作り上げた「オバマ幻想」から一日も早く解放されなければなりません。

## ※参考文献

「核軍縮・平和08」ピースデポ 監修 梅林宏道

## 小牧基地について

職場が近くにあるため、騒音で毎日、また時にはエア・フロントオアシスに出かけてウオッチングしています。今年に入りヘリの訓練が目立ちます。頭上にC130、二機。左右遠方に自衛隊ヘリ、目の前でF2がエンジンの試験。ここは戦場かと思われるほど。そして、三月六日前後、三機目の給油機が導入されます。やがて四機目が導入されるこの給油機は、海外派兵を前提としなければ必要のないものです。こういう形で、私たちの地元で、在日米軍再編が進められていることを忘れてはなりません。

(金安 弘)